

SSI 学会誌編集委員会 2015 年度第 1 回委員会 議事録

日時：2015 年 6 月 7 日（日）10:00～11:00

場所：中央大学駿河台記念館 580 号室

出席者(敬称略)：

北村順生[委員長] (新潟大学)、橋元良明[前委員長] (東京大学)、遠藤薫[副委員長] (学習院大学)、櫻井成一朗[副委員長、英文誌主任] (明治学院大学)、岡田勇[論文受付・査読管理担当] (創価大学)、(以下 50 音順)、今田寛典 (広島文化学園大学)、岩井淳 (群馬大学)、大國充彦 (札幌学院大学)、岩井淳 (群馬大学)、小笠原盛浩[Skype 参加] (関西大学)、岡田安功 (静岡大学)、河又貴洋 (長崎県立大学)、北村智 (東京経済大学)、五藤寿樹 (開智国際大学)、柴田邦臣 (津田塾大学)、松下慶太 (実践女子大学)、松本早野香 (大妻女子大学)、吉田寛 (静岡大学)

欠席者(敬称略)：

伊藤賢一 (群馬大学)、金相美 (名古屋大学)、後藤玲子 (茨城大学)、関谷直也 (東京大学)、服部哲[ネットワーク担当] (駒澤大学)、中森弘道 (日本大学)、野田哲夫 (島根大学)、森田均 (長崎県立大学)、山本佳世子 (電気通信大学)、吉田純 (京都大学)

(文責：河又)

【報告事項】

1. 学会誌発行状況

○第 3 巻 2 号 (2015 年 2 月 28 日発行) 担当：北村智委員・小笠原盛浩委員

○第 3 巻 3 号 (2015 年 3 月 31 日発行) 担当：関谷直也委員・後藤玲子委員

上記巻号の電子ジャーナルとしての発行の報告がなされた。

2. 学会誌発行予定

○第 4 巻 1 号 (2015 年 6 月末以降に発行予定) 担当：中森弘道委員・森田均委員

○第 4 巻 2 号 (2015 年 12 月末発行予定) 担当：柴田邦臣委員・松本早野香委員

○英文誌 8 号 (2015 年 9 月発行予定) 担当：櫻井成一朗委員・金相美委員

上記担当委員の確認がなされた。

【審議事項】

1. 前回議事録確認

前回 2014 年度第 3 回編集委員会 (2014 年 12 月 13 日) の議事録 (別紙 1) を確認し、承認された。

2. 2015 年度学会誌編集委員会の体制について

・2015 年度学会誌編集委員名簿 (別紙 3) を確認した。なお、委員会規則における再任規定 (第 4 条 4 項「委員の任期は、委員長の理事の任期に準ずる。ただし、1 回に限り再任

することができる)については、本委員会の実情に即して、複数回の再任も可能となるような規定変更を総務委員会へ提起することとなった。

・委員長(北村順生)／副委員長(遠藤薫・櫻井成一郎)／英文誌担当(櫻井成一郎)／ネットワーク担当(服部哲)／論文受付・査読管理(英文誌を含む)担当(岡田勇)を上人した。なお、各委員会のネットワーク担当については、新体制下における「広報ネットワーク委員会」で一本化の方向に移行することが、櫻井副委員長から申し入れがなされた。

3. 学会誌の電子的取り扱いについて

(1) J-STAGE への登録について(櫻井成一郎委員提案)

北村智委員が入手した「J-STAGE 方針説明会(2015.5.15)資料」を踏まえ、基本的に J-STAGE に登録していく方向が了承された。なお、具体的な登録の方法については、今後 JST から発表される情報を精査しつつ検討していくことになった。(担当:北村智委員)

(2) 著作権協会への電子複製権の委託について(五藤寿樹委員)

著作権収入の一部にもかわり、委託の方向で承認された。

3. 第4巻3号以降の和文雑誌編集長

○第4巻3号(2016年3月末発行予定):

○第5巻1号(2016年6月発行予定):

○第5巻2号(2016年12月発行予定):

○第5巻3号(2017年3月発行予定):

#上記巻号の編集長選出については、経験者+若手(新編集委員)の組み合わせを念頭に置きながら、編集委員長(北村順生)宛てにメールで各委員から最低1名ずつの新委員の推薦を募ることとなった。

4. 今後の企画について

(1) 特集論文

○特集「ビッグデータ、オープンデータ」:

第4巻2号(2015年12月末)以降に掲載目標。

○特集「選挙」:橋元担当(3名)

第4巻2号(2015年12月末)掲載目標。原稿締切:2015年3月末。

原稿依頼:橋元委員長。原稿依頼先:

○特集「世論」:遠藤担当(9月末原稿締切)

第4巻3号(2016年3月末)掲載目標。原稿締切:2015年6月末。

原稿依頼:遠藤副委員長。原稿依頼先:

○特集「メディア」:橋元担当

第5巻1号(2016年6月末)掲載目標。原稿締切:2015年12月末。

原稿依頼:橋元委員長。原稿依頼先:

○特集「ジェンダー」:金相美

第5巻2号(2016年12月)掲載目標。原稿締切:2016年3月末。

原稿依頼:金委員。原稿依頼先:

#橋元元委員長より、特集テーマの原稿入稿予定に関して、「ビッグデータ、オープンデータ」については十分な数の原稿がすでに入稿予定であること、「選挙」「メディア」についても見込みが立っていることが報告された。また、遠藤副委員長からも「世論」についての見込みが報告された。「ジェンダー」については、本日欠席の金委員に確認することとなった。

#特集原稿の集まり具合に応じて、適宜、掲載号は前後に入れ替える可能性があることも確認された。

#非会員への原稿依頼は、謝金問題もあるためできるだけ会員を優先し、必要な場合に限り非会員への依頼を検討する旨の了解を得た。

(2) その他の企画

○第4巻1号(2015年6月末以降発行予定):

- ・第5回横幹連合総合シンポジウム(2014年11月29日~30日)の報告記事(遠藤)
- ・日本計画行政学会(JAPPM) & SSI 共催若手研究交流会開催報告、今年度のお知らせ(山本)

・東北支部2014年度第3回研究会報告(北村)

・総会シンポジウム報告?

#2015年6月2日時点の査読状況(別紙2)について確認した。

#総会シンポジウム報告については、北村委員長より田中秀幸研究活動委員に報告者の出稿了解取り付けを含め確認する。間に合わなければ次号へ。(→原稿は9月末締切なので、掲載予定は第4巻2号となる。)

○第4巻2号(2015年12月末)

- ・学会大会シンポジウム報告、ワークショップ報告
- ・学会賞受賞報告(優秀文献賞、学位論文賞、研究発表優秀賞、など)

○第4巻3号(2016年3月末)

- ・第6回横幹連合総合シンポジウム報告(遠藤副委員長より提案)
- ・学会大会シンポジウム報告、ワークショップ報告
- ・若手カンファレンス報告

#桜井副委員長兼事務局長より、和文学会誌で校正を2回にわたって実施した事例があったが、発行期間の短縮および印刷費用の縮減のために、校正は原則1回とすることが確認された。また、年度決算に合わせるために、各巻3号は年度内に発行するよう厳守依頼がなされた。

(3) 翻訳論文(英文誌)

#桜井英文誌担当副委員長より、過去の和文誌(旧JASI・JSIS学会誌を含む)に掲載された和文論文の英訳版を採録する提案がなされ、7月末締切で募集することが承認され

た。なお、査読手続きはとらず、著者責任によるネイティブチェックを課すこととした。

6. 学会誌編集作業の改善に関わる諸問題

(1) 編集委員会の事務局（岩井淳委員）

前回編集委員会からの申し送り事項。

「会員名簿」が作成・共有され、編集業務の効率化（事務の簡素化）が図られるため、岩井委員からの編集委員会としての事務局の必要性についての提案は取り下げられた。

(2) 原稿受領通知について（関谷直也委員）

現状、原稿受領通知を投稿者に送るのが遅れがちという問題があります。これは現状の審査プロセスでは、1)審査員の決定と、2)形式審査後に投稿者に返事を出すことになっているからです。現状の編集作業メモですと、下記のようになっております。

「審査担当委員は、投稿論文が執筆要領等の投稿規定の条件を満たしていることを確認する。条件を満たしていた場合は、受付日と受付番号を記入した「原稿受付通知書」（様式 3a）を投稿者に送付する。条件を満たしていない場合は、「原稿返却通知（範囲外）」（様式 3b）または「原稿返却通知（分量超過）」（様式 3c）を投稿者に送付する。」

1)審査員の決定と、2)形式審査は、他学会などでは、審査プロセスの一環だと思えます。通常、原稿受領通知は投稿を受領した時点で事務局等が行うものですが、本学会は査読担当委員が行うことになっています。編集長も年3回変わりますし、引継ぎもあります。本学会はすべてメールで行っているの、その役割に気づきにくいという理由もあろうかと思えます。

原稿受領通知は、投稿を受付た時点で 1)相即、2)特定の人が、受領通知を出すというように変更した方がよいと思えます。

投稿論文の受付対応において、岡田勇委員から非公式対応、公式受領は審査担当委員から発出されることが了承、確認された。

(3) 印刷会社の選定（関谷直也委員）

第3巻3号では複数印刷会社に見積依頼。もっとも安かった印刷会社（創志企画）に委託した。第4巻1号以降の印刷会社の選定はどうするか？

創志企画 202,176（3巻3号の印刷会社）

朝日印刷 387,720（3巻2号までの印刷会社）

勝美印刷 347,550（英文誌の印刷会社）

※なお、その後原稿が増えたので実際の支払い額は 233,280

#引き続き「創志企画」に印刷依頼をすることで了承確認された。

(4) 査読期間の短縮化（山本佳世子委員）

- ・ 査読者数の再検討。2名に変更し、片方が不採択の判定のみ、3人目の査読者を立てる。査読期間の短縮化につなげることが目的。
- ・ 査読期間を短縮化する方法の検討。学位論文の要件にする投稿論文は、学生が査読期間を重視する。

「多数決原理」で審査を行っている現状を鑑み、さらに検討を進めるよう継続審議となった。

(5) 学会誌の評価向上 (山本佳世子委員)

- ・学会誌の審査付き論文には、受付日、採択日を必ず記載する。
- ・英文誌の Impact Factor の取得。国際誌が急増しているので、IF がないと投稿数の増加を望めない (特に留学生は、IF が無い英文誌には投稿しません)。国際学会での発表直後に、国際誌から発表論文を改訂して投稿しないかという旨のお誘いを受けると、そちらに投稿してしまう。
- ・編集委員全員による審査・査読方法、プロセスの再確認。あいまいな場合、受けとめ方が違う場合もあるかもしれない
- ・学会誌の定期刊行の確認。法人化後は定期刊行が実施されていないと、監査で問題になる。学位審査の時に要件となる論文の信頼性にも関わる (学位論文の審査では、学会誌のレベルも検討対象とされる)。

北村智委員より、Impact Factor の取得は難しいであろうとの指摘があった。

(6) 審査料、掲載料の導入 (山本佳世子委員)

- ・理工系の学会では指導教員が共著者のため、指導教員が支払うので導入可能ですが、SSI では投稿数が増えるからの方が良いかもしれません。

→ # (4) (5) (6) 事案については次回編集委員会での継続審議となった。

【その他 (確認事項)】

1. 学会誌論文執筆の勧誘

- ・研究発表優秀賞受賞者に対して、推薦論文の原稿執筆を依頼する。
- ・学会大会の自由論題のすべての司会およびコメンテーターに対して、優秀発表とは別に、メール等で優秀な発表者を推薦してもらい、編集委員会から原稿投稿を依頼・勧誘する。

2. 学会研究会等の概要報告原稿の依頼

- ・学会大会のシンポジウム、ワークショップ
- ・定例研究会、公募型研究会、若手カンファレンス
- ・支部研究会

3. 次回編集委員会予定

学会大会期間中[2015年9月11日(金)～13日(日)]、於：明治大学
詳細はプログラム確定後に連絡

『よくわかる社会情報学』の書評掲載にかかわる提案が桜井副委員長よりなされ、書評担当者の選定についての意見募集がなされた。

今田寛典委員長より、旧 JSIS 学会誌バックナンバーの処分について動議があった。桜

井副委員長より希望者への無料配布（郵送料は希望者負担）の提案があり、理事会の審議事項として提案されることが了解された。

以上